

## 臨床研究の実施に関する情報公開

静岡県立総合病院では、臨床研究倫理委員会の承認を得て、下記の臨床研究を実施します。関係各位の御理解と御協力をお願い申し上げます。

患者さん又は患者さんの代理の方が、この研究のために試料・情報が使用されることにご了承いただけない場合は、問合せ先までご連絡ください。

研究課題名	シャント作製前の掌握運動によるシャント発達の効果
研究機関名	静岡県立総合病院
研究責任者	腎臓内科 村上雅章
研究期間	倫理委員会承認後から 2019 年末まで
対象者	2016年10月から2017年9月までの間に静岡県立総合病院腎臓内科にて末期腎不全にて血液透析導入を選択された方で待機的にアクセス作製が予定された患者様。対照群としては2016年4月から10月まで運動を積極的には施行していない待機的にアクセス作製を予定された患者様。
当該研究の意義・目的	自己血管内シャント（AVF）はバスキュラーアクセス(透析を行うための血液経路)の中では生命予後が最もよく、成熟すれば、合併症も最も少なく、世界各国のガイドラインに推奨されています。しかし、不成熟となれば、せっかく作製しても使用できません。世界的には手術しても使用できない症例が 23%という報告もあります。近年、透析を始める方は糖尿病や高齢の方が多く、AVF 作製の初期不成功は世界的にも問題となっております。海外のガイドラインにもシャントの発達に対して、掌握運動が推奨されており、海外でもシャント作製前や作製後に運動することで血管が発育したとの報告があり、日本でも慣習的に掌握運動が推奨されているが、日本の状況はあまりわかっていないのが現状です。当院では2016年10月頃より積極的にシャント作製前に運動を推奨しているが、それによる効果について調査します。
方法および研究で利用する試料・情報について	対象となる患者さんの診療録（カルテ）から次の情報を調査します。 静脈、動脈の血管径、全アクセスの中で AVF が作製できた割合、手術の成功率、一次開存率、二次開存率、患者背景、握力、利き手で作製できたかどうか等
個人情報の開示に係る手続き	個人情報の開示に係る手続きは、下記の問合せ先にご相談ください。

資料の閲覧について	あなたからのご要望があれば、この研究において開示が可能であると考えられる範囲内で、この研究の計画や方法についての資料をご覧いただくことができます。
問合せ先	◆その他、この研究に関するお問い合わせ、苦情等ございましたら下記へご連絡ください。  静岡県立総合病院 腎臓内科 村上雅章代表 054-247-6111